

## 開成宮農経済センターからのお知らせ

今月の注文書等について  
「果樹・水稻土壌改良剤」  
※お申し込みのお忘れがないようご注意ください。

9月の自己取り商品について  
「野菜・果樹 秋農薬・肥料」「みかん関連資材（果実袋）」「秋期生産資材」  
「被覆植物種子」「そら豆・玉葱種子」「ラウンドアップマックスロード」  
**令和6年9月19日（木）・20日（金）・21日（土）**  
**9：00～15：00の間に取りに来てください。**  
(上記以外のご注文品は準備ができ次第、ご連絡いたします。)

技術顧問の日 (園芸相談)	農業の専門家が農作業の相談に応じます。 土曜日以外は在籍予定ですが、都合により不在の場合がございます。
お米の日	神奈川県産の玄米を特別価格で販売します。(毎月第2・第4火曜日) <b>9月10日・24日となります。</b>

## 作物管理情報

——【キウイフルーツ】 \*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。——

病害虫防除 9月上旬

○果実軟腐病

バルコート水和剤 1000倍 100g/水100㍓ 収穫前日 5回

\*カイガラムシ多発園では9月上旬～中旬にトランスフォームフロアブル 2000倍 50ml/水100㍓  
収穫3日前 3回

施肥

9月中旬と10月中旬に分肥 キウイ配合 100kg/10a

後期肥大は、年間肥大の20%程度あります。肥料の分肥は9月中旬に60%、樹勢回復には10月中旬に40%の2回に分けて行う事で効果が上がります。

## 【う め】

夏季剪定 9月中旬頃までに、縮間伐・立ち枝の間引きを実施しましょう。

樹の内部に光を入れることで、花芽分化の促進をします。また、夏季剪定の際に残す枝の葉を落とすと翌年の花芽分化に悪影響します。注意しましょう。

### ※灰星病発生園での剪定について

- ・結果枝（実のなる枝）に症状がある場合は、切り落とします。
- ・被害が多い場合は、側枝単位で切り落とします。
- ・樹全体に症状が広がっている場合は、健全な枝（緑枝など）を残し切り落とします。  
剪定枝は発生源になるので、必ず園外廃棄しましょう。

——【温州みかん】\*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行きましょう。——

この時期の病害虫防除は、収穫時の外観・品質へ大きく影響します。必ず実施しましょう。

病害虫防除 8月下旬 ~ 9月上旬

- 黒点病 シマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100㍓ 収穫30日前 4回  
又はペンコゼブ水和剤 600倍 166g/水100㍓ 収穫30日前 4回  
\* 極早生に散布する際は、収穫日に気をつけてください。
- ミカンハダニ ダブルフェースフロアブル 3,000倍 33ml/水100㍓ 収穫前日 1回  
ミカンサビダニ 又はダニゲッターフロアブル 2,000倍 50ml/水100㍓ 収穫前日 1回
- チャノホコリダニ スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100㍓ 収穫前日 3回  
ヤノネカイガラムシ

9月下旬~10月中旬

- カメムシ類 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/100㍓ 収穫前日 3回  
又はロディー乳剤(劇) 2,000倍 50ml/100㍓ 収穫7日前 4回

浮皮軽減 蛭尻期

- フィガロン乳剤 3000倍 収穫7日前まで2回 300㍓/10a  
1回目 蛭尻期に散布 2回目 蛭尻期の2週間後 (※ただし、樹勢が低下している樹には散布しない。)

——【中晩柑】——

病害虫防除 8月下旬~9月上旬 基本防除はみかんの項参照

\* 中晩柑の防除における農薬の使用日数には十分に注意しましょう。

- 例) シマンダイセン水和剤 収穫90日前 12月上旬収穫のものには散布できません。  
ペンコゼブ水和剤 収穫90日前 12月上旬収穫のものには散布できません。

○かいよう病(単用散布) コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍓ (クレフノン200倍を加用)

施肥 中晩柑は秋季も窒素成分を切らさないようにしましょう。

初秋肥 9月中旬 特選みかん配合655 140kg/10a(後期肥大促進・樹勢維持のため)

\* 10月下旬にもう1度施肥を行います。 特選みかん配合655 100kg/10a

——【レモン】\*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行きましょう。——

病害虫防除 8月下旬~9月上旬

- ミカンハダニ ダブルフェースフロアブル 3,000倍 収穫前日 1回 33ml/水100㍓  
ミカンサビダニ 又はダニゲッターフロアブル 2,000倍 収穫前日 1回 50ml/水100㍓  
チャノホコリダニ
- かいよう病 コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍓ (クレフノン200倍加用)
- 黒点病

施肥 中晩柑の項参照。

——【湘南ゴールド】——

秋口の摘果では肥大促進効果は低いので、病害虫の被害が著しい果実と極小果を中心に仕上げシンニング(摘果)を行きましょう。裾枝・下垂枝の持ち上げ摘果で2S以下を無くしましょう。

仕上げシンニング (摘果)	9月20日	3.9cm~5.4cm	このサイズを残し、 外観を中心に仕上げ摘果
	11月20日	4.8cm~6.5cm	

仕上げ摘果・枝吊り

10月以降果実の肥大は緩慢となります。その前に小玉果、傷果を摘果し、果実の大きさを揃えましょう。果実の重量で枝が折れたり、裂けやすくなるので、重くなる前に、枝吊り、枝支えを必ず行いましょう。

施肥 中晩柑の項参照

## 【水 稲】

### 水稻の生育状況

令和6年産水稻の生育状況は、草丈は平年より長く、莖数はやや多く、葉色はやや濃い傾向です。出穂期はやや早い状況です。今後の気温は高い予報となっていますので、水管理などで稲への負担を軽減しましょう

### 水管理

出穂後35日(収穫7日前頃)を目安に落水を行いましょう。(土壌条件にもよります。)

落水が早いと登熟が悪くなります。登熟不良や胴割れを防ぐために、完全落水は収穫作業に差し支えない範囲で出来るだけ遅らせましょう。

### 高温時対策

気温が高くなると品質の低下が起こりやすくなります。その対策として出穂期、登熟期の間断かん水、かけ流し、夜間入水を行いましょう。(特に、夜温が高い日はできる限り夜間入水して、水温を下げ、稲の呼吸による消耗を防ぎましょう)

### 収 穫

収穫適期は、穂に青籾がはるみ・キヌヒカリ・てんこもりでは15%残っている時期です。

**平年の収穫目安** 5月25日田植えの場合

はるみ・キヌヒカリ 9月14日頃      てんこもり 9月20日頃

### 乾 燥

収穫した籾は、ムシを防ぐため4時間以内に乾燥機に入れましょう。

コンバインで収穫した籾を急激に乾燥させると胴割れし易くなるので、風乾燥を4~5時間行い水分が20%前後になってから火力乾燥(40℃を越えない)し、玄米水分含量を14.5%~15%に調整しましょう。

(循環式乾燥機をお持ちの方は、取扱説明書に従い作業を行いましょう。)

### 機械の取扱い

農作業の安全と品質の確保のため、機械は使用前に取扱説明書を読み、機械の性能にあわせて無理せず作業しましょう。

## 【か き】

### 枝つり

着色を良くするために、果実の重みで下がった枝を吊り上げて、光を入れるようにしまししょう。

### 病害虫防除

9月上旬~9月中旬

カメムシ (夜間に飛来と加害が多いので、夕方に防除しまししょう)

○スタークル顆粒水溶剤                      2,000倍    50g/水100ℓ    収穫前日    3回

\* カメムシは山林から飛来して加害します。園の一部に加害が集中する場合があります。園内を良く見回り、加害を発見した時は防除しまししょう。(早生種では、加害時期と収穫時期が重なります。収穫前日数には十分に注意しまししょう。)

○うどんこ病・炭疽病    スコア顆粒水和剤    3,000倍    33g/100ℓ    収穫前日    3回

※台風などの強風、大雨があった場合は速やかに防除する。

## 【く り】

病害虫防除 9月 (収穫7日前まで)

○クリシギゾウムシ モスピラン顆粒水溶剤(劇) 4,000倍 25g/水100ℓ 収穫7日前 3回

\* 早生品種との混植園では、早生品種を収穫した後に散布を行いましょう。

収 穫

自然に落果した物から速やかに採取しましょう。遅れると虫の被害が多くなります。

## 【お 茶】

施 肥 秋 肥 9月中旬

秋肥は、貯蔵養分として来年の一番茶に利用されます。光合成が活発化する10月～11月に貯蔵養分として吸収され、越冬芽の充実度に反映し、来年の収穫量を左右します。2回に分肥し、1回目と2回目の施肥の間隔は20日程度を目安とします。

1回目 8月下旬 足柄茶配合033 80kg/10a

2回目 9月中旬 足柄茶配合033 80kg/10a

病害虫防除の徹底をお願いします。

病害虫防除 8月中旬～9月上旬

○チャハマキ ファルコンフロアブル 4,000倍 25ml/水100ℓ 摘採7日前 2回

ヤノガモハキ 又はフェニックスフロアブル 2,000倍 50ml/水100ℓ 摘採7日前 1回

【いちじく】 \*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

追 肥 8月～11月

樹勢回復と貯蔵養分増加のために、NK化成2号を20kg/10a施用する。

病害虫防除 9月(秋雨前)

○疫病 雨が続いた場合は疫病の注意が必要です。

ランマンフロアブル 2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日 3回

## 【野 菜】

タマネギ

播種の半月前までに、完熟堆肥(2kg/㎡)・苦土石灰(100～150g/㎡)を施し、よく土と混和しておきます。未熟堆肥の施用は、タネバエの発生を助長しますので避けましょう。

9月20日～25日を目安とし早生は早めに、

中生は遅めに種をまきましよう。育苗日数は55日～60日を目安とします。

病害虫防除

○タネバエ ダイアジノン粒剤5 300～500g/a 播種時または定植時 2回以内

**※農薬名に網掛けがあるものは購入時に印鑑が必要となります。**

<注意>農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。

・「収穫〇日前」：定められた使用時期。記載されている収穫前日数まで散布ができます。(前日は24時間前)

・「回数」：農薬成分の総使用回数のこと。栽培期間中、何回散布可能か確認しましょう。

※店舗により農薬の在庫状況が異なります。記載の農薬を購入される場合は事前に在庫確認をしていただくとスムーズに購入できます。